

にいがただかくだ



新潟のロシア

Northern  
FREE PAPER  
niigatadakarada

mm

## Noismとは？

りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館が金森穰を舞踊部門の芸術監督に迎えたことで2004年設立された、日本初のレジデンシャル（劇場専属）舞踊カンパニー。国や地方が後ろ盾となり、ダンサーたちにプロとしてダンスに専念できる環境を提供するシステムは欧米には多くの例があるが、日本においてはこのNoismが初の試みである。同時に、プロのダンサーとしての身体性や、舞台芸術並びに創作に対する金森穰の姿勢は、舞踊におけるプロとアマの境界線についての問題提起も行う。毎年2作以上の新作を発表し続け、また07年度からは海外公演にも積極的でその評価は目覚ましい。2009年には「Nameless Hands～人形の家」により第8回朝日舞台芸術賞を受賞。メンバーはメインカンパニーとなるNoism1、研修生カンパニーであるNoism2とともに10人前後で構成され、毎年入団審査となるオーディションが行われる。Noism1から巣立った者の多くは現在も日本のダンス界で活躍を続け、Noismの活動そのものがダンス界に大きな影響を与え始めているといっても過言ではない。

## チエーホフ 国際演劇祭とは？

ロシアを代表する小説家であり戯曲の数々でも知られるアントン・チエーホフの生前の活動にちなみ、1992年に開設された演劇祭。毎年5～6月にかけて、世界各国からすぐれた演劇作品を招へいし、上演。2004年には日本から文楽公演が参加するなどして注目を集めた。今回のNoismの公演は、その創作活動や表現に注目した実行委員会からの要請により“共同制作”的形をとり上演される。



# 妄想と現実、二重のものがたり

想像の産物であるそれは、他者には見えない（聞こえない）ことにより、妄想と名付けられる。  
しかし、今見えている（聞こえている）そのことが、はたして唯一の現実と言い切れるのだろうか。

感傷に訴えることを意図した作品でないことは重々わかつていただが、なぜか涙がこみ上げてきた。ダンサーの身体からわき上がる熱のようなもの、目に見えない波動に、魂がぐいぐいと押しつけられた、とても表現したらよいだろうか。

昨年の「Nameless Hands～人形の家」に続く見世物小屋シリーズの第二弾として09年11月に上演された「Nameless Poison～黒衣の僧」は、作品としての見え方にこれまでのNoism作品とは大きく一線を画する印象を覚えた。それは、音楽と身体の動きとがどこかずれて、ぎくしゃくしているからである。一般的にダンスにおいては、まずストーリーを乗せて運ぶ音楽の存在があり、その音楽と身体性の調和から表現が描かれることが多い。しかし「Nameless Poison」においては、「音はあるものの）ストーリーを奏でるのは音楽ではなく、絡まつたり溶けあつたり突き放しあつた不協和音を奏で続けるダンサーたちの身体そのもの。そこから絞り出される感情がストーリーをつないでゆく、そんな印象なのだ。」貞節な娼婦、“病んだ医者”、“飛べないジゼル”、“怖がりの闘牛士”etc…意味深な名前を与えた登場人物たちが、それぞれの身体性を駆使した独自の言語で、語りかけてくる。そしてそのとき、舞台を包み込む音は、まるで風が人々の物語とは無関係にそこに吹くように、どこかよそよそしい。

『黒衣の僧』はロシアが生んだ小説家、チエーホフの短編小説である。モスクワで行われる「チエーホフ国際演劇祭」との共同制作・参加が決まり、その題材を選ば際に芸術監督の金森穰が着目したのは、チエーホフ作品の根底に共通して流れる「苦悩」だった。作品のあいさつ文の中で氏はこう述べている。「その苦悩をぬぐえるのは人間しかいないのだとチエーホフは言います。しかし生活の機械化により、生きることそのものが個人化し、他者との関係性が希薄になつてゆくこの現代社会に於いて、我々はどこに他者を見出し、どこに救いを求めているのでしょうか…」。仮想世界の中で自作自演を繰り返し自らも別人と化す。それゆえの現代人の複雑な苦悩を、金森穰はある機械を介することで表現した。

携帯型音楽プレイヤーである。

ダンサーたちは全員それを耳に装着し、観客が聞いているのとはまったく別の音楽に合わせて身体を動かしているのである。混雑を極める駅などで人ごみにもみくちゃにされながらも、涼しい顔をして歩いている人がそれを装着していることに象徴されるように、イヤホンは周囲と自分とを遮断するひとつの膜のよう役割をする。同時に、金森穰は、観客たちとダンサーそれぞれに別の音楽＝ストーリーを与えることで、ひとつの中間に、な苦悩を、金森穰はある機械を介することで表現した。

異なる時間を同時進行させた。情報過多、感覚の共有なき集合、脳の働きが増大して身体感覺が薄れゆく現代社会の中では、各人のアタマの中を個別の物語が進行し、そうした異なる物語を生きる者同士がひとつの空間に同居するという現象も起こっているはずだ。そのときに生じる不思議なずれこそが、現代社会なのだと受け取ることもできる。観客たちが見ているのは、仮想世界を生きるために現実世界では「ぎくしゃくして見える」他者たちなのかも知れない。

ちなみに、ダンサーたちの耳に流れ込んでいる曲の大半は、チャイコフスキーや「白鳥の湖」だそうだ。クラシック・バレエの名曲中の名曲であり、華やかなワルツから哀愁を帯びたアダージオまで多彩な楽曲で構成されたこの組曲は、バレエ音楽の中でもひとときわドラマチックである。また、「白鳥の湖」という物語 자체、主人公のひとりである王子の迷いや葛藤を題材にしているところが、チエーホフの描き出すところである。“苦悩”に通じるのではないか。選曲の理由について彼は多くを語りたがらないが、しかしそうした楽曲を（クラシック・バレエ出身者もある）金森穰が無意識に選ぶとは到底思えない。直接的ではないにしろ、こうして物語は二重三重に重なり合い、さらに複雑さを醸し出すのである。

09年11月20日の初演から4日間の新潟公演はあつという間にチケットは完売。恒例のアフタートークも今までにない参加率の高さだった（初日などは観客ほぼ全員が参加したと思われる）。仮想現実と他者と、そして苦悩。Poison… “名も無き毒”はそれを観た者の身体の中に入り込み、触発し、また新たな仮想世界を作りはじめるのかも知れない。

チエーホフ国際演劇祭との共同制作

# Nameless Poison

～ 黒衣の僧

Черный монах





ごちそうさまでした!



#### 【ブリニー】

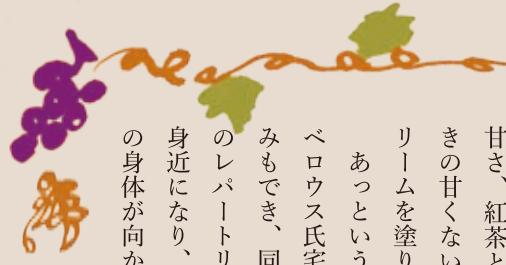
小麦粉・卵、砂糖を合わせた生地をフライパンに薄く流して焼いたもの。丸い形のまま重ねて食べたり、写真のように4つに畳んだりと、食べ方はいろいろ。サワークリームの他、ジャムをつけて食べるのもいい。

#### 【ワリエニキ】

小麦粉と卵、水を混ぜてこねた皮の中に、ピュレにしたジャガイモとしめじを合わせて包んでいる。具はこれ以外にキャベツなどの野菜やひき肉など、各家庭や地方により多彩。たっぷりと溶かしバターをかけていただく。

#### 【ボルシチ】

細かく刻んだビーツと人参、タマネギ、ジャガイモ、キャベツ、豚肉を、濃いめのブイヨン（豚骨を使うのがベター）で煮込んだこのひと皿は、ビーツの色が溶け出で見事な赤色に染まっている。サワークリームを添えてテーブルへ。



ペロウス・エフゲニイ氏  
06年新潟市国際交流員として新潟市役所に赴任。ひとり娘のイラちゃんは新潟生まれの1歳。この日は奥様のオリガさんが手料理でもてなしてくれた。ビーツはデパートの野菜売り場などで入手可能だそう。



おイモだ!」とひと言。このワリエニキ、中にジャガイモのピュレが入っていて、こつくりとろりと溶けたバターの塩味と一緒に飲みこむと身体の内側に幸せな温かさが広がる。さらに「サワークリームをつけてもおいしいですよ」というペロウス氏の勧めに従い、感動を募らせる井関さん。対する金森氏は「サワークリームの酸味はなくても、十分おいしい」とプレーン派。「このあとスタッフも試食させていただいたのだが男子は全員“サワークリーム無し”派だった。酸味×クリーミーインストに反応するのは女子の特性なのだろうか?」

二皿目はロシアといえどこの料理「ボルシチ」!「日本の皆さんはスープだと思っている方も多いようですが、ロシアでは飲むというより食べるものです」とペロウス氏。汁物料理に目がない! という金森氏「うまい!」と一言発した後は、黙々とスープを動かし続ける。井関さんはここでもサワークリームをたっぷり取り「サワークリームの酸味がまるやかに溶けて、うまさ倍増!」とほくほくの笑顔である。最後に、デザートとして登場したのが「ブリニー」。ロシア風クレープ、といったところだろうか。「こちらもサワークリームをつけて食べていただくのがおすすめです」。お酒は苦手、というふたりのために用意されたミントティーと交互に口に運んだ金森氏、「この甘さ、紅茶とともにすごく合いますね」。井関さんは「ぽつぽ焼きの甘くない奴って感じ」と言いながらまたしても、サワークリームを塗りたくっている…。

あつという間にすべてを平らげ、身も心もほかほかになつてペロウス氏宅をあとにしたふたり。モスクワ行きの新たな楽しみもでき、同時に料理好きの井関さんはぜひこれらの味を自分レバートリーにも加えたいと意欲満々。ロシアがほんの少し身近になり、同時にそのスピリットを五臓六腑に感じたふたりの身体が向かう新たな身体表現に、乞うご期待!)

## ロシアの家庭料理で ロシアについてもっと知ろう!

チエーホフ国際演劇祭に挑むふたりが、  
ロシア家庭料理に舌鼓を打ち、  
ロシア文化を五臓六腑で感じた、  
ある冬の夜。

金森「男は汁物に弱い」

井関「佐和だけにサワークリームに弱い(苦笑)」



金森 篤 Jo KANAMORI

(演出振付家・舞踊家・りゅーとびあ舞踊部門芸術監督/Noism 芸術監督)

当たり前の話だが、ヒトの身体は食べたもので創られる。つまり食べたものがその人になるのだ。そう考えると食文化と国民性の関係というのは、侮れない。というわけで今回は、6月のチエーホフ国際演劇祭への参加を前にした金森氏と井関さんに、古くからロシアの人々が親しんできた家庭料理を食べてもらうことにした。伺ったのは新潟市国際交流員のペロウス・エフゲニイ氏さん宅。師走間近の新潟市だというのにペロウス氏は半そでTシャツ姿で私たちを迎えてくれた。さすが極寒のロシア出身・冬の新潟なんて寒さのうちに入らない???

ロシア料理というと、07年のNINAのツアーでモスクワに行行った折に食べたバスターが忘れられない、と金森氏・井関さん。「餃子みたいな形をしたニヨッキみたいなものをソースで食べるんでが、すごくおいしかった」(井関)。「劇場のすぐ近くにあるレストランだったので、薄暗い半地下空間に文化人やハイクラスマのたちがひしめいて食事しているという、ちょっと怪しげな雰囲気も忘れない」(金森)。そうロシアの思い出を話す二人の前には、いきなり登場したのは、噂の餃子型の料理ではないか! 「ふたりが話していたのは“ベルメニ”というものでこれより小さいものです。これは中に具が包んであり“ワリエニキ”といいます」。どうりと溶けたバターがたっぷりかかり、真っ白な湯気がほかほか。あつあつを口に入れるや井関さん、「すごくおいしい!」



井関 佐和子 Sawako ISEKI (舞踊家・Noism バレエミストレス)

カラフルなセロファンをほどいて口に取り込むと、コーティングされたチョコレートの中からとろりと舌の上に転がり落ちる凝縮されたフルーツやヌガーの風味。この店の「ロシアチョコレート」には、広く全国から注文が寄せられる。小さいながらにもチョコレートとフルーツの甘味が濃くガツンと調和したマニアックな味は一度はまつたら病みつきに。顧客は日本全国に、そして故郷の味を懐かしみ足を運ぶロシア人も多いという。

店の歴史は一九三〇年ころ、店を設立した先々代がロシア人の職人にロシア菓子の伝統を受けたことに始まる。前述のロシアチョコレートをはじめロシア風のクッキーやエクレア、ケーキ。現在、新潟市・幸西のお店に立つののは2代目の女将さんとそのご子息の3代目・松村行弘さんだ。現在12種類の味を定番にしています。材料選びなども、よりロシアのものに近づけるようさまざまな産地、メーカーを比較しています。十代のころから店を手伝つてもう16年になるという行弘さんだが、まだだ祖父や父の味には敵わない、という。「熟練の技、というんでしようか。味も見た目も、父と同じようになるにはまだ時間が必要なようです」。何より、本物の味を大切にしたいから店舗は増やさず、現在の新潟市・幸西で作れる量だけを販売していくという。

新潟が誇るお取り寄せ自慢のロシア、マツヤのロシアチョコレート。



1



2

3

現在はマトリョーシカのイラストの化粧箱が人気で、お土産として活躍。12個 化粧箱入り ￥1,280 (写真1)

カラフルなセロファンに印刷された飾り文字は、すべて1代目のデザイン。モダンなセンスに脱帽!(写真2)

ショーケースには色とりどりのチョコレートが並び、目移り必須。味はラムのマジパン・杏ゼリー・アーモンドクリーム・レーズン・ヌガチン・りんご・チョコクリーム・抹茶クリーム・パイ・プラムゼリー・イチジク・杏のマジパンの12種類。(写真3)



ロシアチョコレートの店マツヤ  
Tel:025-244-0255 新潟市中央区幸西1-2-6  
営業日/8:00~18:30 休日/日曜・祝日

新潟凱旋公演

2009. 11.20(金) 21(土) 22(日) 23(月祝)  
2010. 3.1(月) 2(火) 5(金) 6(土) 7(日)  
12(金) 13(土) 14(日)

『公演会場』りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 スタジオB  
『開演時間』19:00 [平日] 17:00 [土日祝]  
『演出・振付』金森 穢 『衣裳』中嶋 佑一 (artburst) 『出演』Noism1  
『入場料』一般 4,000円 学生 2,000円 (全席自由・税込) [www.noism.jp](http://www.noism.jp)  
『チケット取扱い・お問い合わせ』りゅーとぴあチケット専用ダイヤル Tel: 025-224-5521  
『主催』財團法人 新潟市芸術文化振興財團 『製作』りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 平成21年度文化芸術拠点形成事業

3月新潟 凱旋公演  
好評発売中!

vol. 2

見世物小屋シリーズ  
Show-Tent Series

# Nameless Poison ～黒衣の僧 Черный монах

Noism 01 りゅーとぴあ

Niigata City Performing Arts Center "RYUTOPIA" Residential Dance Company Noism



チエーホフ国際演劇祭  
Chekhov International Theatre Festival (Moscow)

supported by the Russian Governmental and the Government of Moscow



Noism05  
「NINA～物質化する生け贋」

Noism DVD Release

過去の Nosim 作品が DVD にてご覧になります。  
りゅーとぴあまたは、Noism 公演会場にて絶賛発売中。  
通信販売でのお求めは下記お問い合わせ先へ



Photo by Kishin Shinoyama

今や Noism の代表作のひとつであり、2007年以降はヴァージョンを変え、世界各国で上演し、絶賛された「NINA～物質化する生け贋」の初演がここに蘇る。「絶対的な集中力を放つ身体性＝緊張と放射」を極限まで問い合わせた金森穢の答えがここに。ベトナム系フランス人作曲家トン・タッ・アンの音楽との融合も見どころの一つ。

【演出・振付】金森穢 【出演】Noism05 【音楽】トン・タッ・アン  
【照明デザイン】金森穢 【衣裳】金森愛 【オブジェデザイン】須長壇  
2005年／92分／カラー／価格 4,800円（税込）  
【お問い合わせ】株式会社カズモ 東京都渋谷区富ヶ谷1-37-14-106  
TEL: 03-5478-1081 <http://kazumo.jp/>

「NINA～物質化する生け贋 (ver.black)」

台湾公演レポート

2009年10月にNoismの代表作である「NINA～物質化する生け贋 (ver.black)」を台湾にて上演いたしました。会場となったのは、中正記念堂の敷地内にある国立中正文化中心の國家劇院です。ここは、1986年の開館以降、オペラ、バレエ、ミュージカル、演劇、伝統芸能など各種の公演が開催されている、台湾で有数の素晴らしい劇場です。Noismはここで3公演を行い、連日多くのお客様にご来場いただきました。カーテンコールでは惜しみない拍手とともに大きな歓声が寄せられ、韓国に次いでアジアで2カ国目となった台湾公演は大盛況に幕を閉じました。



記者会見の様子 (左より) Fang-Yi Sheu 女史、Liu Chung-Shu 女史、金森、井関、アン氏



研修生カンパニー Noism2 設立!

2009年9月、正式メンバーからなるNoism1の付属研修生カンパニーとしてNoism2が発足し、Noismは新体制での活動をスタートしました。現在Noism2には7月に行われたオーディションを勝ち抜いた18~23歳までの精鋭8名が在籍し、日々研鑽を積んでいます。2010年3月には早くもNoism2での単独初公演が決定いたしました。また同年7月にはNoism1 & 2の合同公演も予定しています。今後も新たな一步を踏み出したNoismの活動から目が離せません!

[Noism2 初公演]

**Noism2 春の定期公演 2010** 公演日: 2010. 3.27(土) 17:00 3.28(日) 13:00, 17:00

- 旧作レパートリー [振付] 金森穢 ■オリジナル新作 [振付] 山田勇氣 [出演] Noism2 [芸術監督] 金森穢
- ▶会場: りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 スタジオB ▶料金: 1,500円 (税込/全席自由) 発売日: 一般 2月6日(土)
- ▶チケット取扱い・お問い合わせ: りゅーとぴあチケット専用ダイヤル Tel: 025-224-5521 (11:00~19:00)

Noism 活動年譜 2004~2009

- 2004 6月、初作品「SHIKAKU」を上演。第2作「black ice」は現代美術作家・高嶺格が美術・映像を担当。10~12月、全国8カ所をツアー。
- 2005 1月、ジャバニーズ・コンテンポラリー・ダンス・ショーケースに参加 (モントリオール)。2~3月には、金森穢が第3回朝日舞台芸術賞を受賞し、キリンダンスサポートを受けた「nomadic project」を東京、大阪、新潟で再演。「Triple Bill」では、3人の振付家、近藤良平、黒田育世、アレッシオ・シルヴェストリンを招聘し、3作品を制作・上演。11月、新作「NINA～物質化する生け贋」を新潟で初演し、富山、大阪、札幌、東京、仙台をツアー。
- 2006 2月、りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館・能楽堂を舞台とした作品を発表。5月、「sense-datum」を発表。11月、「TRIPLE VISION」で、稻尾芳文 (クリスティン・ヒョット・稻尾と共に)、大植真太郎の作品に加え、金森穢振付「black ice」をver.06として再演。
- 2007 1~2月、「NINA～物質化する生け贋」で初の海外ツアー (北南米5都市)。4月、「PLAY 2 PLAY～干渉する次元」を発表。7月、モスクワにてチエーホフ国際演劇祭招聘公演として「NINA～物質化する生け贋」を上演。10月「W-view」を発表。
- 2008 2月、海外ツアーを実施 (JAPAN FESTIVAL)。金森穢が芸術選撰文部科学大臣賞 (舞踊部門) を受賞。4月、韓国にて「NINA～物質化する生け贋」を再演。6~7月、新作「Nameless Hands～人形の家」を発表。10月、金森穢が新潟日報文化賞を受賞。11~12月、「NINA～物質化する生け贋 (ver.black)」を新潟、横浜で上演。
- 2009 1月、「Nameless Hands～人形の家」の上演により、第8回朝日舞台芸術賞舞踊賞を受賞。日仏文化交流事業の一環として、新潟市からの依頼によりフランスのナントでワークショップを開催。6月、りゅーとぴあと新国立劇場の共同制作作品として「ZONE～陽炎 稲妻 水の月」を発表。9月、Noism付属の研修生カンパニー Noism2 (ノイズムツー) を設立。これに伴い正式メンバーで構成されるNoism1 (ノイズムワン) と、研修生が所属するNoism2の新体制をスタート。10月、「NINA～物質化する生け贋 (ver.black)」台湾公演を実施。11月、モスクワ・チエーホフ国際演劇祭共同制作作品「Nameless Poison～黒衣の僧」を発表。

りゅーとぴあ  
新潟市民芸術文化会館

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館  
〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町3-2 <http://www.ryutopia.or.jp/>

にいがただからだ 2010 Vol.2 niigatadakarada 2010 Vol.2

[監修] 金森穢 [編集] 白田香太・飯島麻奈美 (アトリエタイク)、藤原由貴 (Noism広報) [デザイン] 白田香太・飯島麻奈美 (アトリエタイク) [ライティング] 浦野芳子 [写真] 村井勇 (アトリエラボン) [協力] ロシアチョコレートの店マツヤ [発行者] りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館 〒951-8132 新潟県新潟市中央区一番堀通町3-2 Tel: 025-224-7000 [印刷] 中島印刷株式会社 [発行日] 2010年1月



© 2010 Niigata City Performing Arts Center "RYUTOPIA" All rights reserved Printed in Japan

model.Sawako Iseki (Noism)



きもち、よく踊る。

# Chacott

バレエ・ダンスを愛する人のために、1950年から。

ダンス情報誌DanceMoveチャコット直営店他で好評配布中 ウェブマガジンDanceCube毎月10日ごろ好評発信中www.chacott-jp.com/magazine  
● チャコットオンラインショップへのアクセス方法：チャコットホームページ上の「オンラインストア」をクリック

チャコット株式会社 www.chacott-jp.com 渋谷本店 東京都渋谷区神南1-20-8 TEL.03-3476-1311

<支店・営業所>札幌・仙台・大宮・横浜・名古屋・大阪・広島・福岡 <直営店>全国26店舗

<Worldwide Dance Company Group> Chacott KOREA CO.,Ltd (Seoul) / Freed of London Ltd. (London,New York) / Gallardo Dance S.L. (Madrid)

## より裸足に近く。スキンシューズ・プロ

開発にあたり「Noism」メンバーの方々より

アドバイスをいただきました。

スキンシューズ・プロ 3198-06702 ¥3,045 (本体価格¥2,900)

